

〔例題 1〕 組織構造に関する次の記述ア～オのうちには妥当なものが二つあるが、それらはどれか。

- ア. 組織構造の次元である複雑性には、水平的、垂直的、空間的の三つの構成要素がある。垂直的複雑性とは、階層上下のレベル数を意味している。組織がピラミッド型をしていると想定すると、その高さが増すほど垂直的複雑性は高くなり、上下のコミュニケーションをとって調整することが難しくなる。
- イ. 組織構造の次元には、公式性がある。公式性とは、職務やその進め方がどの程度公に定められているか、組織内のルールや手続がマニュアルのように文書化されているか、を意味している。組織内のタスクの中でも熟練が必要なものほど公式性の程度は高く、組織の上位階層ほど公式性は高い。
- ウ. 組織構造の次元の集権性は、意思決定権限がどの程度組織上位に集中しているかを意味している。集権性が高ければ集権的組織と呼ばれ、低ければ分権的組織と呼ばれる。一般的には、分権的組織よりも集権的組織の方が、下位階層のメンバーのモチベーションを高め参加意欲を強化する。
- エ. 組織構造の次元を規定する要因は様々である。組織の年齢が増したり、組織の規模が大きくなったりすると、公式性の程度は高くなる。
- オ. 組織構造は、外部環境の特性にも影響を受ける。組織の外部環境の複雑性が高くなったり変化に富むようになると、組織の集権性の程度は高くなる。

- 1. ア, ウ
- 2. ア, エ
- 3. イ, エ
- 4. イ, オ
- 5. ウ, オ

〔正答 2〕

〔例題 2〕 国家賠償法における損害賠償責任に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。
ただし、争いがある場合は判例による。

1. 国等の公権力の行使に当たる公務員の不法行為による被害者は、その損害賠償責任を、国等のみならず、当該公務員個人にも問うことができる。
2. 国等が公権力の行使に当たる公務員の不法行為に基づく損害賠償責任を負った場合、当該公務員に故意があったときでも、国等は当該公務員に対して求償することはできない。
3. 国等の公権力の行使に当たる公務員の不法行為に基づく損害賠償責任について、当該公務員の選任・監督に当たる者とその俸給、給与等の費用を負担する者とが異なる場合、費用負担者は損害賠償責任を負うことはない。
4. 公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく国等の損害賠償責任が成立するためには、当該営造物の設置管理を行う者の過失の存在が要件とされている。
5. 国等が公の営造物の設置管理の瑕疵に基づく損害賠償責任を負った場合、損害の原因について他に責任を負うべき者があるときは、国等はその者に対して求償することができる。

〔正答 5〕

〔例題3〕 消費者の需要関数に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 需要の所得弾力性が正である財のうち、需要の所得弾力性が1より大きい財は必需品、需要の所得弾力性が1より小さい財は奢侈品と呼ばれる。
2. 需要の所得弾力性が1より大きい財は、所得が増加するとその財に対する支出額が所得に占める割合は低下する。
3. ある財の価格変化が別の財の需要量に与える効果は交差効果と呼ばれる。財Aの需要の財Bの価格に対する交差効果が正のとき、財Aは財Bの粗補完財である。
4. 2財モデルで価格変化の効果を代替効果と所得効果とに分解すると、限界代替率が逡減していれば、一方の財の価格が下落したとき、代替効果によって他方の財の需要量が増加する。
5. 2財モデルで価格変化の効果を代替効果と所得効果とに分解すると、ある財の価格が下落したとき、その財が上級財であれば、所得効果によってその財の需要量は増加する。

〔正答5〕